

パルテノン多摩NEWS

再開館準備号

vol.6

(2021.11.25発行)



物語を描き出す 新しい舞台技術と展示空間

新しいパルテノン多摩での感動や学びの体験につながる
様々な舞台の仕組み、その一部をご紹介します。
そして中面では展示空間についてお知らせします。

令和3年度「市民舞台芸術学校」後期 「プロデューサー講座」「劇場講座」大好評で終了

「プロデューサー講座」

【第1回】9/11(土)

プロデューサーの仕事、役割

【第2回】9/18(土)

プロデューサーの実務

「劇場講座 トークセッション“劇場は今”」

【第2回】10/2(土)

【第3回】10/24(日)

コロナ禍にいかに対策して稽古、公演を実現してきたか、公演中止や延期の際の対応も含め、最前線の演劇人たちが劇場界の今を語り、事後のアンケートでも大好評をいただきました。ナビゲーターは全3回演劇ジャーナリストの徳永京子さんで安定の進行。既報の通り第1回ゲストスピーカーは演出家の藤田俊太郎さんでした。

【第2回】

株式会社ワタナベエンターテインメント代表取締役社長

渡辺ミキさん

プロデューサーとして大手芸能事務所社長として、多数の俳優、タレント、社員を守りながら、プロデュース作品の公演中止も経験、緊急事態宣言下で活動の制限に悩む演劇界の現状が話されました。コロナ禍での活動の現状を語る言葉には共鳴される方が多く、勇気を得たというご感想も多数寄せられました。渡辺ミキさんからは、女性経営者としての細やかな視線と強靭な精神力と実行力、経営するエンターテインメントスクールでの心温まる指導力も感じられました!

【第3回】

俳優

岡本健一さん

コロナ禍において大作歴史劇「リチャード二世」のタイトルロールを演じ、紀伊國屋演劇賞と芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。その前年には菊田一夫演劇賞、前々年には読売演劇大賞の最優秀男優賞を受賞など、演劇界のトップランナーの一人である岡本健一さん。常に「自身の言葉で語る」俳優であり、コロナ禍での受賞の際も公演の際も、稽古場と劇場こそ感染拡大予防に努めていて安全な場所だと語り、観客を迎えることができる喜びも話してきました。トークセッションでも同様、そして硬軟自在で他では聞けないフリートークも大好評でした!

「プロデューサー講座」は劇場や公演、プロデューサーの仕事の実態にご関心をお持ちの方が受講され、事後のアンケート調査で多くの御好評が寄せられました。

講師は世田谷パブリックシアター館長(6月末まで東京芸術劇場副館長)の高萩宏さんで、カルチャートークとしても示唆に富んだ内容でした。

第1回では、受講者2人1組になって演劇界との関わりや演劇の素晴らしさを話し、直後に相手の話を相手に成り代わって紹介する「他己紹介」というミニワークショップも行いました。第2回は、コロナ禍になってプロデューサーは判断力が求められる機会が増えたとのコメントに、プロデューサー業の多様性に理解を深められた方が多く見受けられました。



多摩ニュータウン×演劇プロジェクト

「わたしとたまのものがたり」

成果発表公演 終了しました

10月31日(日)、多摩市総合福祉センターの多目的フロアにて成果発表公演を行いました。この企画は、地域をテーマにして市民がまち歩きや取材・交流を行い、演劇作品をつくるというプロジェクトです。今年が多摩市の開戸と唐木田にスポットを当て、市民参加者が7月からワークショップを重ね、作品づくりを行ってきました。「開戸のものがたり」は開戸の場所や建物

を擬人化してわかりやすく紹介。「唐木田のものがたり」では、地域を盛り上げようと躍起になる市民のコミカルな場面もありました。参加者の皆さんは、ワークショップを通してまちの未来に思いを馳せたり、自分の心の動きを再認識する場となったようです。公演には市民のボランティアスタッフも多数参加し、市民の皆さんの創造力を存分に発揮する機会となりました。

開戸チーム

唐木田チーム

撮影:岡田洋

丸善多摩センター店+パルテノン多摩連携展示 「多摩市が歩んだ50年」

開催中～令和4年4/14(木)まで 10:00～21:00

観覧無料

●場所:丸善多摩センター店
新刊コーナー横フェアスペース

丸善多摩センター店と連携した展示の第6弾。昭和46年11月1日に市制が施行され、多摩町が多摩市になって今年で50周年を迎えました。当館所蔵写真などでこの50周年を振り返るとともに、関連する書籍を紹介しています。●レジ裏スペースでは「多摩の幕末・明治」の展示を開催中です。(～令和4年4/14(木)まで)



※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、公演の中止や内容に変更が生じる場合がございます。最新情報はホームページ等でご確認ください。

舞台の基礎知識 バトンとは?

バトンとは、舞台で幕や照明機材、大道具や看板などを吊るす金属のパイプです。



バレエのセットなどでよくみかけるとはいますが、このように白い布をバトンに吊っています。



看板もこのように吊り下げられています。出演者の頭上にあるものなので、落下などがないように仕込みには細心の注意が必要です。

こんな感じに!



2020年2月撮影

改修前の大ホールの吊物機構は手動でしたが、改修工事によって電動化されます。

アンケート
に答えて

プレゼントを当てよう!

【締切】令和4年1/5(水) 17:00まで

アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で20名様にパルテノン多摩のグッズをプレゼントします!
アンケートはこちらのQRコードから



※今回のアンケートでいただいた個人情報は当館者への連絡以外には使用しません。※当館の発表は発送をもってかえさせていただきます。

UD
FONT

見やすく読みましがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

パルテノン多摩共同事業体

構成団体 公益財団法人多摩市文化振興財団 株式会社JTBコミュニケーションデザイン
野村不動産パートナーズ株式会社 株式会社フラットステージ

〒206-0034 東京都多摩市鶴牧1-24-1 新都市センタービル 501号室(～令和4年1/28(金)まで(予定))
TEL: 042-375-1414 9:00～17:00(土日祝日、12/29(水)～令和4年1/3(月)、1/31(月)休み)

主催・共催の記載がない事業は、主催:多摩市 企画制作:パルテノン多摩共同事業体の事業です

par_tama
_info

Instagramでパルテノン多摩とつながろう!

パルテノン多摩の現在の活動や、あたらしくなるパルテノン多摩の情報を発信しています。

プレゼントが
当たる
チェック!

パルテノン多摩の大ホール、小ホール、新設のオープンスタジオなどの舞台技術全般を担うのは、舞台技術課です。
今回は、華やかな舞台、公演を裏で支えるスタッフに話を聞きました！



舞台技術課長
浅井真也
(株式会社フラットステージ)

舞台スタッフさんは、具体的にどのような仕事をしていますか？

舞台スタッフは**舞台・照明・音響・映像**の専門分野に分かれています。
舞台は仕込み(設営)から本番の進行、撤収などを、ご利用される方々と一緒に作業をします。また、舞台機構(ボタンや反射板の昇降)の操作も行います。
照明は当たり前の事ですが、出演者を照らす事です。逆に暗転にするなど、あえて照らさなかったり、特定の出演者だけを目立たせる事も行います。客席側の照明の明暗なども照明スタッフが制御、調整しています。



音響は、スピーチや楽器の拡声、CDなどの音源再生、映画上映時のスピーカーを設置し、音量や音質調整を行っています。
映像は講演会やシンポジウムなどでパソコンの画面やDVD、ブルーレイの映像をビデオプロジェクターを使って舞台上のスクリーンに投影する際など、トラブルの無いようにスタッフが技術的な対応をしています。
その他、ホールスタッフの業務としては、上演作品、俳優さんに就いている専門の舞台技術スタッフがパルテノン多摩のホールに来館された場合に、各専門分野のスタッフが、仕込みや本番、または撤収時の安全面の管理や備品の管理等を行っています。

どんなことに気を付けてお仕事をしていますか？

舞台は華やかな場所である一方、危険な場所でもありますので、安全第一を心がけています。また、ホールをご利用される方々のご要望に対して、「できません」という言葉は使わずに、「こういう方法なら可能です」と代替案をお伝えするように心がけています。



大変なことはありますか？

ホールではクラシックの演奏会、演劇、ミュージカル、朗読劇、バレエ、合唱、ロックやポップスのコンサート、吹奏楽など、本当に様々な用途で使用されますので、様々な専門知識が必要な所でしょうか。
また、仕込みや撤収時間の制約があり、段取りで頭を悩ませたり、機器トラブルが起きた時は迅速な判断が求められ、代替品を大至急手当するなど、大変といえば大変ですが、対処できた時や無事終演した時の喜びも沢山あります。

今回のリニューアルオープンで、お客様に何を一番楽しみにしてほしいですか？

今までパルテノン多摩をご利用くださっていた方々は、私たち舞台スタッフに再会できる事を楽しみにしていただきたいと思います(笑)。
逆にパルテノン多摩を改修後に初めてご利用される方々には、ハード面もホスピタリティも充実した施設にしていきますので、ご利用の際はその点を楽しみにしていただきたいと思います。

みなさんにメッセージをお願いします

大規模改修で、長期間ホールが休館していただいただけでなく、コロナ禍でホールを簡単にご利用いただけずに、舞台を利用される方々にとっても辛い日々が続きました。私たちも同じで、本番が無事に終わった心地よい疲労感や、客席からの拍手を味わえなかったのは辛かったです。そういった私たちの思いなどもあり、来場される皆さんと一緒に素晴らしい舞台を創りたいという気持ちでいっぱいですので、是非パルテノン多摩にお越しください！

フルバージョンはホームページをご覧ください



施設予約について ※料金等詳細はホームページをご覧ください。

2022年7月から12月までの大ホール、小ホール予約受付中です！
(利用日の属する月の13か月前の1日から予約受付開始、抽選あり)

2022年4月利用分の会議室、練習室なども予約受付中。
(2022年5月利用分は12/1(水)から(市外は12/10(金)から)予約受付開始、抽選あり)



※2022年1/31(月)の窓口業務は事務所移転のためお休みさせていただきます。2/1(火)からは、パルテノン多摩2階西側入口にて9時より窓口受付を開始予定。(詳細が決まり次第ホームページ等にてお知らせします)

パルテノン多摩公式ホームページが新しくなりました！パソコンの他、スマートフォンやタブレットからも、快適に！



新しいパルテノン多摩のここが変わる

ミュージアム編

新しいミュージアムは…地域まるごと博物館の入口となる場所に！

多摩市には、多摩ニュータウン開発によるさまざまな住宅や公園などの整備された街並みがある一方、従来からの暮らしで培われた貴重な文化や古くからの寺社や石仏、開発前の谷戸のくらしの名残である里山なども残されています。また、当館以

外にも多摩ニュータウンエリアや多摩市域には多くの博物館があり「知る」ことを楽しむことができる場所でもあります。

新しいミュージアムは、この豊かな多摩市全体を博物館と見立てる「地域まるごと博物館」の入口となる施設として活動していきます。展示室では「まちの入口」とし

て、街を新たな視点で再発見できる「メガネ(=視点)」を手に入れ、市民学芸員の活動やITなどで地域をつなぎ、地域を再発見し、愛着をはぐくみ、地域を考える手段を手に入れ、記憶を次世代へ継承します。

展示では、新たに収集した多摩ニュータウン関連の資料や、新たに分かった研究成果などもご紹介していきます。

ミュージアムリニューアルのポイント

※イラストはすべてイメージ

ミュージアム・エンジン

ミュージアムの原動力となる市民たちの学びや活動ができるスペースです。
情報検索などのほか、市民学芸員による展示の準備や小さなワークショップなどでもできるスペースです。



まちの情報ステーション

「地域まるごと博物館」のスタート地点として、街に何があるかを知ったり、みんなで情報共有するためのスペースです。
いろいろな切り口で多摩市の姿を確認してみましょう！



多摩・発見コーナー(仮)

展示は、柔軟で変化のある展示を実現させます。
これまで別々に扱われがちだった人文・自然の資料もあわせて展示し、地域を総合的に見つめられる場にします。



多摩・発見ボックス(仮)

多摩のさまざまな魅力を発見できる移動可能な展示キット。
館内だけでなく館外でも気軽に展示ができるような仕組みを考えています。



学芸員のおすすめポイント
橋場万里子:新しいミュージアムは、みんなでつくるミュージアムです。多摩市にあるさまざまな謎や魅力・課題などを再発見してみてください！
仙仁 径:これまで少なかった人と自然の関係がわかる展示が増えます！五感で展示を楽しめる工夫をするのでお楽しみに！

リニューアルオープン後の展示をぜひ見に来てください！

学芸員に聞きました！博物館の展示ができるまで



撮影者:金子哲也氏